

Sun. Jun 16, 2019

第1会場

Oral presentation

[AC4] 「学ぶ力」の育成支援

9:00 AM - 10:30 AM 第1会場 (2F レセプションホール)

[AC4] AC4

浅香 えみ子、三上 剛人、川原 千香子、河合 正成、小池
伸享、中村 香代、政岡 祐樹（日本クリティカルケア看護学
会 教育委員会）

9:00 AM - 10:30 AM

第4会場

Oral presentation

[AC5] 気管挿管患者の口腔ケアの充実にに向けた検討

9:00 AM - 10:20 AM 第4会場 (1F 中会議室)

[趣旨] AC5

北村 愛子¹、佐藤 憲明²（1. 大阪府立大学、2. 日本医科大学
付属病院）

9:00 AM - 9:10 AM

[AC5-1] AC5

○田戸 朝美¹（1. 山口大学大学院）

9:10 AM - 9:25 AM

[AC5-2] AC5

○安藤 有子¹（1. 関西医科大学附属病院）

9:25 AM - 9:40 AM

[AC5-3] AC5

○門田 耕一¹（1. 岡山大学病院）

9:40 AM - 9:55 AM

Oral presentation

[AC6] 救急・集中ケアにおける終末期看護プラク

ティスガイドの公表

10:30 AM - 11:50 AM 第4会場 (1F 中会議室)

[AC6] AC6

立野 淳子¹、小島 朗¹、田山 聡子¹、中谷 美紀子¹、比田井
理恵¹、藤本 理恵¹、山勢 博彰¹、山勢 善江²、山本 小奈実²、岡林 志穂²、大野 美香²、芝田 里花²、福島 綾子²（1.
日本クリティカルケア看護学会 終末期ケア委員会、2. 日本
救急看護学会 終末期ケア委員会）

10:30 AM - 11:50 AM

第6会場

Oral presentation

[AC7] 臨床のアイデアを研究にしよう-臨床研究なんで

も相談所-第2弾

1:10 PM - 2:40 PM 第6会場 (B1F 小会議室2・3)

[AC7] AC7

木下 佳子¹、中田 諭²、明石 恵子³、佐々木 吉子⁴、中村 真巳⁵（1. N T T 東日本関東病院、2. 聖路加国際大学、3. 名古屋
市立大学、4. 東京医科歯科大学、5. 埼玉医科大学国際医療セ
ンター）

1:10 PM - 2:40 PM

Oral presentation

[AC4] 「学ぶ力」の育成支援

Sun. Jun 16, 2019 9:00 AM - 10:30 AM 第1会場 (2F レセプションホール)

企画:教育委員会

[AC4] AC4

浅香 えみ子、三上 剛人、川原 千香子、河合 正成、小池 伸享、中村 香代、政岡 祐樹（日本クリティカル
ケア看護学会 教育委員会）

9:00 AM - 10:30 AM

9:00 AM - 10:30 AM (Sun. Jun 16, 2019 9:00 AM - 10:30 AM 第1会場)

[AC4] AC4

浅香 えみ子、三上 剛人、川原 千香子、河合 正成、小池 伸享、中村 香代、政岡 祐樹（日本クリティカルケア看護学会 教育委員会）

Keywords: 学ぶ力、メタ認知、経験学習

私たちの学習は様々な要素によって構成されています。学習環境、学習教材そして学習支援方法とともに「学ぶ力」があります。同じ条件のもとに学習した場合の成果は学習者個々によって異なります。これは「学ぶ力」の相違によるものである可能性があります。この「学ぶ力」は、看護に関わる学びのみならず、日常の様々な場面に存在しています。「学ぶ力」は人の生き抜く力としても重要であり、ATC21s（Assessment and Teaching of 21st Century Skills）の10要素の一つである思考の方法“学びの学習”として扱われています。

「学ぶ力」には経験学習などの体験型学習によるメタ認知的アプローチによる習得方法があります。本交流集会では、事例を介して効果的に「学ぶ力」を育成するための支援方法にテーマを置き、皆様と交流していきます。

Oral presentation

[AC5] 気管挿管患者の口腔ケアの充実に向けた検討

Sun. Jun 16, 2019 9:00 AM - 10:20 AM 第4会場 (1F 中会議室)

企画:口腔ケア委員会

[趣旨] AC5

北村 愛子¹、佐藤 憲明² (1. 大阪府立大学、2. 日本医科大学付属病院)

9:00 AM - 9:10 AM

[AC5-1] AC5

○田戸 朝美¹ (1. 山口大学大学院)

9:10 AM - 9:25 AM

[AC5-2] AC5

○安藤 有子¹ (1. 関西医科大学附属病院)

9:25 AM - 9:40 AM

[AC5-3] AC5

○門田 耕一¹ (1. 岡山大学病院)

9:40 AM - 9:55 AM

9:00 AM - 9:10 AM (Sun. Jun 16, 2019 9:00 AM - 10:20 AM 第4会場)

[趣旨] AC5

北村 愛子¹、佐藤 憲明² (1. 大阪府立大学、2. 日本医科大学付属病院)

Keywords: 口腔ケア

当委員会では、2015年より日本集中治療医学会と連携し、気管挿管患者における人工呼吸器関連肺炎の予防をねらいとする口腔ケア実践ガイドの策定に向けて、クリティカルケア領域における調査研究を踏まえて取り組んでまいりました。実践ケアガイドでは、様々な施設環境と使用物品などの制約がある中で、どのような施設でも、充実した口腔ケアが行えるようブラッシングケアと維持ケアの二つのケア方法を提案しています。また気管挿管患者の口腔内洗浄では、洗浄水とともに細菌が下気道に流入するとの仮説から、口腔内洗浄を中止する施設が多くなりました。その結果、気管挿管患者における口腔ケアは簡素化される現状にあります。しかし、簡素化された気管挿管患者の口腔ケアは、正常な口腔機能の維持が難しく、そして気道管理が長期化する患者にも適応できるかのエビデンスはありません。

また、本来気管挿管患者の口腔ケアは、時に時間も要する専門的ケアである必要性があるとも言えます。そこで、改めて気管挿管患者の口腔ケアの充実するケアについて検討することをねらいとして第15回学術集会において交流集会を企画させていただきました。

交流集会では、気管挿管患者への口腔ケアの特徴を述べ、1) 口腔ケア方法の問題について検討 2) 口腔ケアの汚染物の回収方法、3) 口腔ケアの教育の3点について当委員会の委員より発表をさせていただき、皆様とともにディスカッションを深めていきたいと考えています。

<ファシリテーター>

「口腔ケアにおける汚染物の回収効果について検討する」

田戸朝美 (山口大学大学院)

「気管挿管患者の口腔ケア；高度なケア技術について再考する」

安藤有子 (関西医科大学付属病院)

「口腔ケアの教育について検討する」

門田耕一 (岡山大学病院)

<口腔ケア委員会委員>

担当理事：北村愛子 大阪府立大学

佐藤憲明 日本医科大学付属病院

田戸朝美 山口大学大学院

安藤有子 関西医科大学付属病院

劔持雄二 東海大学医学部付属八王子病院

門田耕一 岡山大学病院

9:10 AM - 9:25 AM (Sun. Jun 16, 2019 9:00 AM - 10:20 AM 第4会場)

[AC5-1] AC5

○田戸 朝美¹ (1. 山口大学大学院)

Keywords: 口腔ケア

口腔ケア実践ガイドの完成を目前に控え、委員会として改めて気管挿管患者への口腔ケアの難しさを感じている。その理由は以下の3つの点がある。気管挿管患者の口腔ケアは、気管チューブにより視野確保が難しい。また操作するスペースが十分確保できない。さらに口腔ケア時に気管チューブ抜去のリスクがあることがある。このような困難な状況下でも、口腔ケアの重要な目的である口腔内を清浄に保つために、プラークの除去、破壊した

プラーク等の回収、湿潤環境の維持を達成しなくてはならない。

このように高度な技術を必要とする気管挿管患者の口腔ケアにおいて、その手技は本邦では標準化されたものがなく、本委員会が提示した口腔ケア実践ガイドが標準化の道しるべとなることを目指している。そこで、本セッションでは、実践ガイドの中で用いている2つの汚染物回収方法である「洗浄法」と「清拭法」の効果の違いを、汚染物の回収効果、口腔衛生環境、流れ込みの程度の3つの視点から検討した結果を報告する。

9:25 AM - 9:40 AM (Sun. Jun 16, 2019 9:00 AM - 10:20 AM 第4会場)

[AC5-2] AC5

○安藤 有子¹ (1. 関西医科大学附属病院)

Keywords: 口腔ケア

気管挿管を要する重症患者にとって適切な口腔ケアについては長きに渡り議論がなされてきた。しかしながら本邦においては確固たるエビデンスが確立されておらず、その必要性を認識しているものの、最善の方法は未だ模索している現状にある。気管挿管患者における口腔ケアは常に人工呼吸器関連肺炎；VAPのことを意識しなければならない。クリティカルな状況にある患者は、免疫能の低下や低栄養、意識障害、咳嗽力の低下など全身性の要因に加えて、気管チューブの存在で閉口困難となり、口腔内の乾燥や唾液分泌の低下によって自浄作用が低下し、種々の抗菌剤の投与で常在細菌叢の乱れなどがあり、バイオフィルムが形成されやすい状況にある。気管挿管を介する経気道的な病原体の侵入によりひとたびVAPなどの二次的合併症を併発すれば、生命の存続に直結し、患者の生命力を著しく低下させてしまうことは言うまでもない。

一方、生命・暮らし・人生を支援する看護の視座では、正常な口腔機能の維持、口渇の緩和、快適性の保持などもまた口腔ケアの重要な目的である。口腔ケアはリスクを心得て、ベネフィットを最大限にもたらすことを意識し、細心の注意を払いながらも実施すべき高度で複雑なケアであると考え。本セッションでは、口腔ケアのベストプラクティスを考え、この高度なケアをどのように継承していくかを検討したいと考える。

9:40 AM - 9:55 AM (Sun. Jun 16, 2019 9:00 AM - 10:20 AM 第4会場)

[AC5-3] AC5

○門田 耕一¹ (1. 岡山大学病院)

Keywords: 口腔ケア

クリティカルケア領域での看護実践の中で必須として身につけておくべき「口腔ケア」、その実践ガイド策定に向けて日本クリティカルケア看護学会口腔ケア委員会では日本集中治療医学会とともに時間をかけて検討を重ねてきた。近日中の公表にあたり今後、口腔ケアをどのように教育してケアの標準化に繋げていくかを検討しておく必要がある。

病院各々で口腔ケアの実施方法に違いが生じている理由は、これまでの発表にもあるように基礎教育で取り上げられておらず、各施設での教育に委ねられていることがその1つと考えられる。そこで今後、「気管挿管患者の口腔ケア実践ガイド」が公表された後に、皆様にはこれを基軸にして各施設の口腔ケアおよびその教育方法を「修正」ではなく「再検討」して頂きたいと考えている。重要なことは、自施設の方法が「合っている」「間違っている」を明確にすることではなく、実施されている口腔ケアがその目的に合った方法が実践できているかを、基準を持って再確認することにある。まず、口腔ケアの目的を「VAP予防」と直線的に考えるのではなく、「良好な口腔環境の維持」すなわち「口腔内の自浄効果が発揮できる湿潤環境の維持」にあることを再認識する必要がある。その上で、他の不顕性誤嚥の予防策を並行して講じることで、結果としてVAP予防に繋がると考えるべきである。このことは、各国が口腔ケアを他の不顕性誤嚥のためのケアを包含したVAPバンドルの1つとして取り入れていることにも通じている。このことが理解できていれば、ベッドサイドで患者個々の状態に応じ

た柔軟な「看護実践としての口腔ケアの検討」も可能になる。私は、「口腔ケアの目的の明確化」が口腔ケアの教育の要点と考えている。

次に、口腔ケアの実施手技についても検討されなければならない。洗浄法については不顕性誤嚥の危険性があることは言うまでもない。しかしながらブラッシングにより破壊された汚染物の除去は、洗浄法により効果的に回収できることは、いくつかの文献に散見される。そのため、ブラッシング法が安全に実施でき、その上で維持法によって適正な口腔内環境が維持できるように教育する必要がある。これらの具体的な方法は「口腔ケア実践ガイド」に盛り込んでいるが、それをどのように伝えていくことが効果的なのか、このことも会場の皆様と検討していきたい。

また、口腔ケア実施の評価についても検討してみたい。前述の内容から、口腔ケアの評価も「VAPが起こったかどうか」は評価の一助にはなるがそれだけですべてを評価できないことは言うまでもない。要は、ケアの目的を明確にすることで、その方法の評価や検討すべき点が明確になる。口腔ケアの目的が「口腔内の自浄効果が発揮できる環境にあるか」ということであれば、「口腔粘膜の湿潤度」「口腔内各部位での口腔内細菌数」「口腔の臭気」などもその評価に有用かと思われる。不顕性誤嚥の有無を評価するのであれば抜管後の気管チューブのカフの染色による汚染面積の評価も有効であろう。

このセッションでは当院の口腔ケアの現状をお示しした上で、どのように口腔ケアの教育や評価を進めていくかについて、会場の皆様との有効なディスカッションができればと考えている。

Oral presentation

[AC6] 救急・集中ケアにおける終末期看護プラクティスガイドの公表

Sun. Jun 16, 2019 10:30 AM - 11:50 AM 第4会場 (1F 中会議室)

企画:終末期ケア委員会

救急・集中ケアにおける終末期看護プラクティスガイド

[AC6] AC6

立野 淳子¹、小島 朗¹、田山 聡子¹、中谷 美紀子¹、比田井 理恵¹、藤本 理恵¹、山勢 博彰¹、山勢 善江²、山本 小奈実²、岡林 志穂²、大野 美香²、芝田 里花²、福島 綾子² (1. 日本クリティカルケア看護学会 終末期ケア委員会、2. 日本救急看護学会 終末期ケア委員会)

10:30 AM - 11:50 AM

10:30 AM - 11:50 AM (Sun. Jun 16, 2019 10:30 AM - 11:50 AM 第4会場)

[AC6] AC6

立野 淳子¹、小島 朗¹、田山 聡子¹、中谷 美紀子¹、比田井 理恵¹、藤本 理恵¹、山勢 博彰¹、山勢 善江²、山本 小奈実²、岡林 志穂²、大野 美香²、芝田 里花²、福島 綾子² (1. 日本クリティカルケア看護学会 終末期ケア委員会、2. 日本救急看護学会 終末期ケア委員会)

Keywords: 終末期ケア、プラクティスガイド、救急・集中治療

救急・集中ケア領域では、あらゆる治療や看護を講じても救命しえない患者が存在する。ここでのケアに携わる看護師は、患者と家族がその人らしい最期を迎えるために何が出来るのかに悩み、終末期看護に困難さを感じることも少なくない。多死社会を前に、この領域でも、Good Death（望ましい死）のために、Quality of Death（死の質）を求められる時代になっている。

そこで、日本クリティカルケア看護学会と日本救急看護学会では、2017年から終末期ケア合同委員会を発足させ、救急・集中ケアに携わる看護師が終末期看護の実践で活用可能なガイドの作成に着手した。

2018年には、両学会学術集会（6月・10月）の交流集会で案を公表し、参加者との意見交換を行い、さらに、2019年2月のパブリックコメントを経て、今回、最終版を公表するに至った。

本ガイドは、三部構成となっており、第一部は、救急・集中ケアにおける終末期ケアの目的や用語の定義・終末期看護の全体像、また、第二部は終末期看護における看護師の役割や5つのケア概念の内容、そして、第三部では救急・終末期ケアに必要な重要用語や概念、アセスメントツール等の解説を行っている。

本交流集会では、「救急・集中ケアにおける終末期看護プラクティスガイド」について、第一部と第二部それぞれの主要部分を解説するとともに、このガイドの活用方法について参加者とディスカッションしたいと考えている。

多くの皆様のご来場を心よりお待ちしております。

<交流集会内容>

1. プラクティスガイド全体像の説明（日本クリティカルケア看護学会終末期ケア委員会担当理事 立野淳子）
2. 終末期看護の5つの概念の解説（日本クリティカルケア看護学会終末期ケア委員会 中谷美紀子、田山聡子）
3. 今後の展開についての説明（日本救急看護学会終末期ケア委員会担当理事 山勢善江）
4. ディスカッション

Oral presentation

[AC7] 臨床のアイデアを研究にしよう-臨床研究なんでも相談所-第2弾

Sun. Jun 16, 2019 1:10 PM - 2:40 PM 第6会場 (B1F 小会議室2・3)

企画:研究推進委員会

[AC7] AC7

木下 佳子¹、中田 諭²、明石 恵子³、佐々木 吉子⁴、中村 真巳⁵ (1. N T T 東日本関東病院、2. 聖路加国際大学、3. 名古屋市立大学、4. 東京医科歯科大学、5. 埼玉医科大学国際医療センター)

1:10 PM - 2:40 PM

1:10 PM - 2:40 PM (Sun. Jun 16, 2019 1:10 PM - 2:40 PM 第6会場)

[AC7] AC7

木下 佳子¹、中田 諭²、明石 恵子³、佐々木 吉子⁴、中村 真巳⁵ (1. N T T 東日本関東病院、2. 聖路加国際大学、3. 名古屋市立大学、4. 東京医科歯科大学、5. 埼玉医科大学国際医療センター)

Keywords: 看護研究

研究推進委員会では、クリティカルケア領域の看護研究の推進を目的として、研究助成や教育・支援活動を行っています。本学術集会では、昨年に引き続き、臨床研究なんでも相談所を開催いたします。どんな相談内容でも結構ですので、是非相談にお越しください。

今回は、相談する側、受ける側の相互理解をしやすいするために、リサーチクエッションを構造化するための要素を PICO (Patient、Intervention、Comparison、Outcomeの頭文字をとったもの) と PECO (Interventionの代わりに Exposure) にのっとり、簡単にメモしてきていただければと思います

●研究のテーマ

● Patient; 対象としようとしている人 (例えば、〇〇の手術をした人など)

● 介入あるいは要因 (どちらか)

□ Intervention; 介入 (何をしようとしているのか? 例えばプログラムの適用など)

□ Exposure ; 要因 (何をされた人なのか? 例えば、身体拘束をされた人、ICUに入った人など)

● Comparison ; 比較 (何と何を比較するのか? 例えば、プログラムを適用した人としない人、身体拘束をされた人とされなかった人など)

● Outcome ; 結果 (結果を何で測るのか?)

研究によっては、リサーチクエスションに至らない場合や記入できない部分もあると思います。

その他の相談事項も含めて記入できる範囲の準備をしていただけることによりスムーズに相談が行えると思います。

研究の実現に向けて一緒に考えていきましょう。

皆様のお越しをお待ちしています。